

市民団体による河川魚類調査の意義と役割

～ “見捨てられた川” 庄内川の実態を伝える取組～

矢田・庄内川をきれいにする会

はじめに

庄内川は工場排水や家庭排水などによる水質汚濁（全国の1級河川で毎年ワースト10位以内）に悩まされています。

矢田・庄内川をきれいにする会（昭和49年設立）は“見捨てられた川”と言わざるを得ない庄内川に再び「食べられる魚」がすめる環境を取り戻すため、水質や水生生物の調査を長年続けています。



①魚類の生息状況から見た水質評価

庄内川の水質基準は、生態系を保全する観点から**適正な基準とはいえません**。そのため行政等の水質調査では、環境基準を満たしていますが、実態は**強烈な悪臭やヘドロの堆積が見られ深刻な水質汚濁が常態化**しています。

また、夏場は長期間にわたり高水温（30℃以上）になっています。



奇形魚・魚病感染調査
庄内川では夏場（高水温期間）に寄生虫が多数確認される。

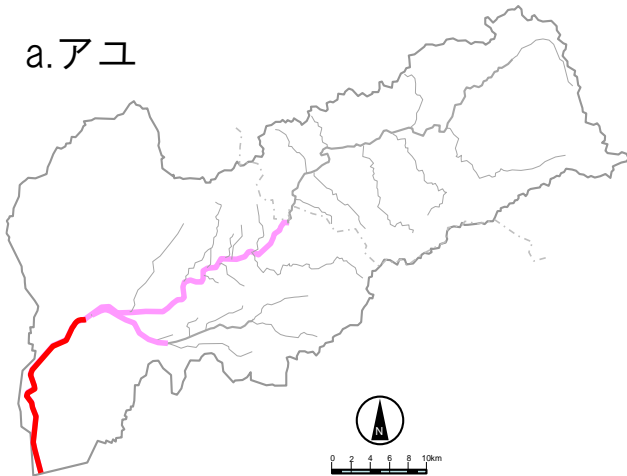
水産生物の食味試験
水質基準を満たしていても庄内川の魚はまずくて食べられない。

○既存の水質調査では評価できない川の汚れ具合を魚類の生息状況や食味（美味しさ）で把握

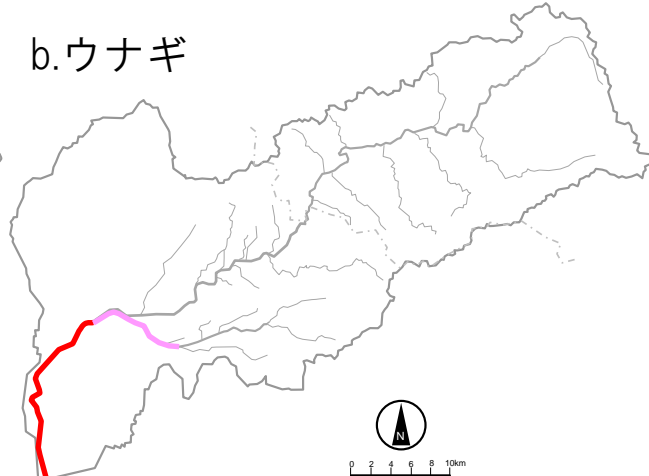
②回遊魚の遡上状況から見た魚道評価

庄内川には堰や落差工などの河川横断構造物が多数あります。回遊魚の移動阻害を把握するため、回遊魚の生息有無や確認頻度をもとに、河川横断構造物に設置されている魚道の性能を調査しています。

a.アユ



b.ウナギ



c.カジカ、アユカケ等



回遊魚の遡上状況（赤色：多数確認されるエリア、ピンク色：少数ながら確認されるエリア）

○多くの魚種が小田井床止で遡上阻害を受けている。→魚道が機能していない。

③外来魚の侵入・定着状況の監視

他の水域から持ち込まれる外来魚（観賞魚含む）の侵入・定着状況を監視しています。

オオクチバス



魚道の流入口で捕獲。遡上する稚アユなどを捕食していた推測

ヒレナガゴイ



矢田川（名古屋市）で捕獲。飼われていたものが放されたと推測

ニジマス



庄内川（春日井市）で確認。上流で放流されたものが流下したと推測

アメリカナマズ



庄内川（春日井市）で確認。現時点で繁殖個体を確認していないが、今後要注意

庄内川水系で確認された外来魚等

○都市河川である庄内川は、外来魚が持ち込まれる危険性が高いため未然防止策が重要。

<まとめ>

市民団体の魚類調査により河川生態系（水質や水域連続性等）の実態を把握することが可能。

→今後は行政の環境施策に調査結果を積極的に活用することが必要。